

法吉小学校だより



法吉っ子

令和8年1月 文責 校長：伊藤英俊

法吉小のホームページも

どうぞご覧ください⇒



ほん気で考える子・つよい心をもった子・きょうも元気な子・このまちを大切にする子

◆飛躍の年にしましょう

冬休みが明け、子どもたちの元気な声が学校に戻ってまいりました。令和8年（2026年）、新しい一年のスタートです。

本年の干支は「午（うま）」です。十二支の「午」は、本来「忤（さかう）」という意味を持ち、地面を突き破って作物が盛んに成長する時期を表すと言われています。

また、動物の馬は古くから「物事が『うま』くいく」「幸運が駆け込んでくる」といわれる縁起の良い動物であり、その力強く大地を駆ける姿は「行動力」や「飛躍」の象徴です。

こうした午年のイメージのように、本校の子どもたちにも、自身の目標に向かって颯爽と駆け抜ける一年であってほしいと願っています。

馬は障害物を軽やかに飛び越える力を持っています。子どもたちにも、学習や生活の中で直面する小さな壁を恐れることなく、それを成長の糧として乗り越える「たくましさ」を育んでいきたいと思います。



◆門松のある始業式

凜とした寒気の中、3学期が始まりました。

始業式に合わせ、地域の方々が「最近は見かけることが減った門松を、子どもたちにぜひ体験してほしい」と、職員玄関に立派な門松を飾ってくださいました。

門松には、冬でも緑を保つ不老長寿の「松」、真っ直ぐに伸びる成長の「竹」、春に先駆けて気高く咲く「梅」と、子どもたちの健やかな成長への願いが込められています。本物の伝統文化の迫力に、子どもたちも「なんだかありがたい気持ちがある」と、感動した様子でした。

地域の皆様の深い愛情に支えられて始まる3学期。「感謝の心」を大切に、松竹梅のようにたくましく、充実した日々を過ごしてまいります。



◆地震から身を守る「シェイクアウト」

1月6日の地震では、子どもたちも保護者の皆様も大きな不安を覚えられたことと思います。

地震から身を守るための安全行動として、「シェイクアウト」という行動が有効とされていますので、どんな動きなのかを紹介しようと思います。「シェイクアウト (ShakeOut)」とは、アメリカ発祥の防災訓練で、「地震を振り払う (生き延びる)」といった意味が込められた造語です。地震発生時、場所を選ばず誰でも瞬時に行える以下の「3つの安全行動」を指します。

1. 姿勢を低くする (DROP)
2. 頭を守る (COVER)
3. ゆれが収まるまで動かない (HOLD ON)

学校の避難訓練でも、地震のゆれを感じた時は、素早く机の下に入り、机の脚をしっかり持って身を守る訓練をしています。この度の地震で改めて指導をしています。

シェイクアウト以外の日頃の備えも重要です。家具の転倒防止や非常用持ち出し袋の点検はもちろんですが、最も大切なのは「家族の約束」です。災害時にどこへ避難し、どう連絡を取り合うか、この機会にご家庭で話し合ってみてください。



提供 効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議



◆「おもいやり算」のすすめ

2学期の終業式に、「おもいやり算」という話をしました。算数の「たす・ひく・かける・わる」の計算を、心のもち方として表した考え方です。

「+」は、たすけあう。一人の力では壁にぶつかることも、仲間と手を取り合えば乗り越えられます。

困っている友だちにそっと手を貸せる、そんな優しさを大切にしたいものです。

「-」は、ひきうける。嫌なことや面倒なことを誰かのせいにするのではなく、「私がやるよ」と自ら引き受ける勇気。その一言が、周りの人の心をふっと軽くしてくれます。

「×」は、声をかける。「おはよう」「大丈夫?」「ありがとう」。短い言葉のかけ合いが、喜びを何倍にも膨らませます。挨拶は、人と心をつなぐ魔法の言葉です。

「÷」は、いたわる。労わると書き、親切にするという意味があります。親切は、してもされても気持ちがいよいものですよね。お互いの心が和み笑顔が増えるでしょう。

知識を学ぶ場である学校は、同時に「心を育てる場」でもあります。たすけあう、ひきうける、声をかける、いたわる、この4つの「おもいやり算」を行動に移すことで、法吉小を思いやりのあふれる学校にしていきましょう。



ほうきどり

お礼 校庭芝生の管理、登下校の見守り、読み聞かせ、図書ボランティア等、皆様からたくさんのご支援・ご協力をいただいております。今年もよろしくお願いいたします。

電話:0852-21-4354 FAX:0852-21-4359 Mail:hokki-e@city.matsue.ed.jp